

仙台バッハゼミナール発足25周年記念

そしてバッハへ...

仙台バッハゼミナールが生まれて25年。

J.S.バッハの音楽に深く魅せられて、少しずつ、でも歩みを止めることなくここまでできました。

今回は、バッハ自身もアプローチしたであろうと考えられる作曲家たちの作品をお聴き頂きます。

ダンスの面からも“バッハへ”そそぐ流れを感じていただき、

ぜひ、ご一緒に新たな魅力を見出しましょう！

Profile



仙台バッハゼミナール Sendai Bach Seminar

2000年4月24日、J.S.バッハの鍵盤楽器作品を、その分析と演奏研究によってよりよく理解し、良い演奏と指導とに結び付けることを目的として発足。その後、J.S.バッハの魅力をより多くの方々に伝えたいと幅広く活動を展開している。現在の会員数は22名。研究発表としては《平均律クラヴィーア曲集》全48曲を2006年10月～2018年11月にわたって行い、更にバッハ研究者やチェンバリスト、中世・ルネサンス音楽学者などによる講座やワークショップ、様々なコンサートを企画・開催してきた。コロナ災禍中はオンラインで、2022年からは再び対面での活動を開始。現在は《インヴェンション》を中心に、多面的なアプローチを展開している。

代表：田原さえ



市瀬 陽子 Ichise Yoko

立教大学、東京芸術大学卒。舞踊史研究者、ダンサー、振付・演出家。ダンス・ユニット“セーヌ・エ・サロン”を率いてサントリーホール主催企画（2009/2012）にて振付作品を発表。出演作においては衣装・美術も手がけ、バロック・ダンスによる舞台作品《ラ・ヴェルサイエーズ la Versailles!》等を制作。オペラやバレエ作品のための振付・演技指導、JPTA、PTNAにおける講座、子どもを対象にした企画にも積極的に取り組む。著作に『バレエとダンスの歴史』（平凡社）、DVD『時空の旅～バロックダンス・ファンタジー』（解説、エリアビー）、『バロック・ピアニストへの道～フランスの舞曲編』（舞踊監修、学研プラス）等。

聖徳大学准教授、東京芸術大学講師。

Players



五十嵐 美和



石田 仁美



熊谷 美和子



蔡 翰平



佐々木 麻里奈



佐野 文子



高橋 遼



建部 絃子



田原 さえ



新堀 慶子



藤山 知美



八巻 梓 (チェンバロ)



千葉 展子 (トラヴェルソ)



田中 孝子 (ヴィオラ・ダ・ガンバ)